

日風豊国

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第89号 2015年3月31日

遺臣、究極の選択。

長年勤めてきた会社があえなく倒産。

3代目の若社長から「何年先か分からないが、会社を再建したら必ず連絡するから…また一緒に働こう…」と言われたら…
あなたは、どうしますか？

関ヶ原合戦前後の長宗我部氏の状況を現代におきかえるとどんなふうになるのかもね!?



「関ヶ原合戦図屏風」(部分) 福岡市博物館蔵

国親・元親二代で急成長したベンチャー企業「長宗我部」。当時大阪を中心にシェアを拡大していた総合商社「豊臣」との競争に敗れ、その傘下に収まりました。高知支店長となった元親、及び支店長代理の盛親(息子)は、高知県内で業績を伸ばそうとしましたが、本社「豊臣」からの度重なる業務拡張命令によって業績が悪化。加えてカリスマ支店長の元親が亡くなると、代理の盛親が支店長に抜擢されますが、今度は本社「豊臣」が倒産。そのおろしを受けて高知支店も閉店に追い込まれます。この一連の危機のなか、懸命に支店長を支えたのが、副店長久武親直や、中内惣右衛門・桑名弥次兵衛をはじめとする会社草創期からの重役たちでした。また、支店長の親戚である香宗我部親泰も、香美支部長兼経営顧問・相談役として支店長を支えました。

これらの人々は、支店長親子との結び付きが強く、経営に深く関わっていた関係上、高知支店を事実上吸収合併した新経営陣「徳川」のもとで仕事を続けることは困難でした。

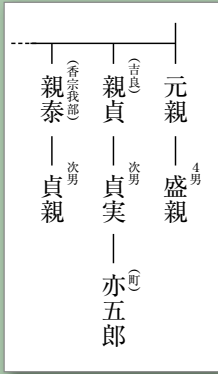
一方、最後の支店長となった盛親は、会社再建のため高知を出て京都に向かいます。

大坂夏の陣400年 長宗我部遺臣それぞれの選択 平成27年4月29日~6月21日

土佐を出る

どの選択肢を選ぶ？

1600年、関ヶ原の戦いにおいて、西軍に属した長宗我部盛親は、領国土佐を失いました。その頃の盛親と家臣の状況を現代風に置き換えると前頁のような感じになるのかもしれませんが。
 実際、主人が改易となったのち、究極の選択を迫られた家臣（遺臣）たちはどのような行動をとったのでしょうか。



一族・一門のエース

香宗我部貞親の場合

貞親の父は長宗我部元親の実弟香宗我部親泰。盛親とは従兄弟の間柄でした。一門のため、土佐に残るという選択肢はなく、先祖伝来の家宝を携え土佐を出国。堺での浪人生活を経て、肥前の寺沢広高に仕官します。



鎧櫃
(伝香宗我部親泰所用)



上: 三又槍 (吉良家伝来)
下: 薙刀 (吉良家伝来)

九州の地で名を残す

吉良亦五郎の場合

「家譜」によれば亦五郎の父は吉良親貞（元親の実弟）の次男貞実。香宗我部氏と同じく一門のため、盛親改易の後浪人となり、土佐を出ました。



他家も欲しかった名将

桑名弥次兵衛の場合

元親が遺言によって長宗我部軍先手（先鋒）の大將に指名したほどの戦い上手で、盛親改易後、藤堂高虎自らが書状を送って家臣に加えた名将です。史料によればこの時高虎が用意した禄高は何と2000石。無論事前に盛親の承認を得たうえでの再仕官でした。



覚(竹心遺書) (三重県蔵)
※桑名弥次兵衛手柄書ともいう

家臣団随一の實力者

久武内蔵助親直の場合

盛親の後見人として、元親から絶大な信頼を得ていた家老頭親直も、土佐には残りませんでした。『土佐物語』等では、盛親を破滅に導いた挙げ句、見捨てた悪臣として酷評されますが、実は幕臣に取り立てられた蜷川道標（元親客将）を通じ、長宗我部家再興のための交渉を行っていたのです。後に肥後の加藤清正に1000石で召し抱えられます。

主に殉じた忠臣

中内惣右衛門の場合

元親・盛親2代に仕えた重臣で、特に盛親に重用されました。関ヶ原の敗戦で西軍が総崩れになった時、残兵500名を統率し、盛親を無事土佐に帰還させたことはよく知られるところです。盛親改易後は土佐を出国。京で再仕活動をする盛親を支えますが、命により、他家に仕官したと伝えられます。



中将姫(六字名号)曼陀羅
(盛親より拝領)



三十三間小星筋兜
(阿波中内家伝来)



土佐で生きてゆく

中途採用の**他国衆**

濱五郎兵衛の場合

五郎兵衛は、長宗我部氏の招きで土佐に來国した元阿波国日和佐城主日和佐権頭のこと。盛親に恩はあったものの、譜代の直臣ではなかったため、新国主山内氏に地下役人として仕える決断をします。晩年赤岡浦庄屋役を次男に譲り、自身は日和佐に帰還します。



肩衣 (伝山内一豊より拝領)

実直な山間部の侍

柳瀬右兵衛の場合

香美郡葦生郷の地侍で、元親・盛親2代に仕えました。盛親改易に際しては軽拳を慎み、新国主・山内一豊入国の折には、武士を捨てる覚悟で浦戸城に出仕。その結果、柳瀬村の名本(村役人)に任命されました。



柳瀬家年譜指出控 (個人蔵)

土佐を出て、再び土佐に帰る

盛親**側近**中の側近

明神源八(郎)の場合

盛親個人に仕えた側近中の側近(近習)で、終始側を離れませんでした。盛親から他家への仕官を勧められますが、二君に仕える意志はなく、また病気を患ったため帰国。まもなく病死しました。



長宗我部盛親書状 明神源八宛 (個人蔵)

お家草創期からの家臣

宮地五郎左衛門の場合

戦だけでなく、検地役人としても有能な地侍でした。山内一豊に先んじて土佐に入国した山内康豊に「武士か百姓か」の二者択一を迫られ、国内鎮撫役(西分御案内役)を勤めたのち、帰農する道を選びました。願いは聞き届けられ、早々に戸波(現土佐市)で領地を与えられますが、地積は大幅に減らされました。



香宗我部貞親は仕官先を辞して江戸に行き再び浪人となります。吉良亦五郎は盛親とともに戦いますが、敗北後、町源右衛門と改名。細川忠興に仕官します。久武内蔵助のその後は

選択の結果は？

さて長宗我部氏最後の当主盛親が京の町屋に蟄居して14年後、歴史は大坂の陣へと歯車をまわします。大名返り咲きを賭け、大坂城に入城した盛親は、遺臣たちに自分の元に馳せ参じるよう呼びかけました。しかし、各地で新しい生活を始めていた遺臣たちには、この14年という歲月はあまりにも長すぎたようです。

以上、長宗我部氏遺臣全体からみれば僅かな事例ですが、選択肢としては、土佐を出る。土佐に残る。一時土佐を出てまた土佐に帰る、という3つの選択肢があったようです。さらに、出国組の多くは他の大名家に仕官している者が多いのに比べ、残留組は武士を捨てた(一旦捨てざるを得なかった)者が多いのも特徴的です。

不明ですが、入城した記録はありません。中内惣右衛門は直ちに帰参。喜んだ盛親から兜と太刀を与えられたと「家譜」に記載されています。桑名弥次兵衛は藤堂高虎への忠義心から敢えて入城せず、あくまで藤堂家の武將として大坂の陣に出陣します。

明神源八はすでに病死していたため、父の遺志を継いだ忠右衛門が土佐を出て入城。盛親とともに戦います。濱・宮地・柳瀬諸氏は、土佐藩の地下役人または地下浪人として生きる道を選択しており、入城することはありませんでした。遺臣としてかつての主人とともに戦う選択をした者と、新しい主人のもと、家名と家族を守るために生きる選択をした者。歴史は時に残酷な選択を強いるものです。大坂夏の陣からちょうど400年目の今年。そんな遺臣たちのその後を見つめます。(野本・大黒)



旗指物 伝藤堂玄蕃良重所用 (常光寺蔵)



かやふり 萱 振



高塚地蔵

「新堂森」と呼ばれる森があった場所。吉田内匠が藤堂式部に地蔵堂の陰から槍で突きかかり、逆に打ち取られたという「高塚地蔵」はこのあたりにあったとされる（現在は移転）。

もりちかくんとたどる 八尾合戦

ぼくが案内するよ!



八尾合戦って?

豊臣方と徳川方の最後の戦いとなった大坂夏の陣。長宗我部軍は大坂城の南東、八尾で藤堂高虎の軍と激突! 藤堂軍をあつ一步のところまで追い詰めながらも勝利することができなかった長宗我部軍は、大坂城へ引き上げていきます。

そして、守備していた京橋口を捨て、京都へ…。ここでは、八尾周辺に残る長宗我部氏ゆかりの地を紹介します。(大黒)

八尾河原

長宗我部軍と藤堂軍が激突した場所。現在は住宅地だけど、当時は一帯が大きな砂洲だったんだ。現地に行ってみると、手前から奥に向かって坂道になっていて、堤があったことが分かるよ。



絵図に描かれた八尾河原。豊臣方は赤字、徳川方は黒字で記される。長宗我部軍に対峙する藤堂軍のなかに、なんとかつての重臣である桑名弥次兵衛が…。藤堂軍の侍大将となっていた桑名弥次兵衛が、かつての主と敵対したときはどんな気持ちだったのだろうか。

(「元和元年卯五月六日之陣備図」(部分) 館蔵)



豊臣方は赤字、徳川方は黒字であらわされてるよ。



※軍の進撃路には諸説あります
※本図は概念図であり正確さを保証するものではありません



久宝寺

八尾の西にある久宝寺。長宗我部軍の本隊はここから進撃していった。「物見」(偵察)の兵が隠れていたといわれる松をイメージして、今も松が植えられている。



藤堂軍の一員として戦場に出た弥次兵衛くんはこんな旗指物を身につけていたんだって。(桑名家文書「当家旗旗図」(部分) 三重県蔵)



八尾・常光寺

藤堂軍と長宗我部軍がその門前で激突したという常光寺。境内には、多くの藤堂軍の武将たちが眠っている。

5月22〜23日開催の史跡めぐり「盛親と遺臣たちの戦いの軌跡をたどる」では、このページで紹介している八尾の史跡の一部を訪れるよ!
詳しくは8ページをチェック!!



第3回民俗資料一般公開の様子

平成26年11月8・9日の2日間、香美市物部町大栃で日本民具学会第39回大会が開催され、関連して第3回目となる旧大栃高校民俗資料一般公開を実施しました。学会は約150名、高校の入場者は約250名に達し、日本全国から集まった研究者や関心ある県民の方々が民具と物部の魅力を満喫しました。
(梅野)



神池地区のかかし

2日限りの民具大博物館in奥ものべ
物部が民具で熱かった!



日本民具学会会場となった奥物部ふれあいプラザ
初日はシンポジウム、2日目は研究発表が行なわれた



シンポジウムのテーマは「民具で地域を再発見
—集められた民具が語る歴史・文化・人—」で、
民具を集めることの重要性を訴えた



徳島県那賀町の太布織り技術も公開



大栃に現存する貴重な鍛冶屋の工場
山崎誠文さんが鋸造りの工程を解説



恒例の宗石玄太郎さんのオガ挽き
実演と体験は今回も好評だった



物部町神池の伝統技術・フトイのゴザ編みを山本茂平さんが披露



物部に伝わる「いざなぎ流」の舞神楽を民具学会員の前で公演。幻の神楽一同感激!



民具学会の一行は、打刃物流通センターで鍛造実演を見学した

考古

四国霊場第三十三番雪蹊寺と 廃仏毀釈

高福山雪蹊寺は、高知市長浜にある四国霊場第三十三番札所で、臨済宗妙心寺派の寺院です。この寺は慶派の仏像の宝庫とも言われています。寺は寺名が示すように長宗我部元親の菩提寺とされています。江戸時代の『四国徧礼霊場記』には雪蹊寺の伽藍が小山を背景に描かれています。それを見ると新川の橋を渡り、垣根に囲まれた参道を登り、門に入ると垣根に囲まれた伽藍が展開しています。左に鎮守、正面に本堂、右奥に鐘楼、さらに正面奥に扉に囲まれた堂や庫裡が描かれています。伽藍の一部が元真言系の伽藍であったことを物語っています。しかし、この伽藍配置は現在ではみられません。そして、場所も変わっています。この伽藍があった場所は、東隣の現秦神社があるところになります。明治期の廃仏毀釈で、寺は明治3年（1870）に一時廃寺となり、建物は取り壊されました。跡地には明治4年に秦神社が創建され、その西隣には現在の高知市立長浜小学校の前身である維新館が建てられました。



現在の雪蹊寺

現在の雪蹊寺のある場所になります。旧境内地は民間に払い下げられました。その後、明治12年に再興されて、明治44年には寺域を拡張、堂宇を再建しました。時代の流れに、神社も寺院も翻弄されたのです。人々を支えた仏像や元親像なども同様です。（岡本）

歴史

中内和一さんを偲んで

今から15年ほど前のこと。長宗我部氏関連の特別展を開催中に、一人の老紳士が来館されました。こりと微笑みながら、「先祖の霊に導かれて観に来ました」と一言。聞けば、長宗我部盛親の重臣中内惣右衛門のご子孫とのこと、徳島市在住の方でした。その後、何度かお会いし、お家にまつわる秘話をお聞かせいただきました。

そのなかで、私が最も感銘を受けたのが、惣右衛門没後より絶えることなく続けてこられた中内家の祭事についてでした。和一氏の先祖惣右衛門は、大坂夏の陣において主君盛親の側を最期まで離れなかった重臣ですが、同家の「家譜」によれば、その子孫は阿波蜂須賀家に仕官しています。

そして、この阿波中内家では、旧主家と先祖の弔いのため、毎年庭に蓮の花が咲く頃、惣右衛門が盛親より拝領した「鞍」や、長宗我部家の秘宝「中将姫（六字名号）曼陀羅」など、一族ゆかりの品を床の間に並べ、線香を焚き供養してきたそうです。私も一度だけこの祭事を見学させていただいたことがあります。何ともいえない厳かな印象を受けました。

和一氏は昨年逝去され、遺言により右の資料は当館に寄贈されました。残念ながらも、祭事は絶えてしまいましたが、ゆかりの品々は氏の想いとともに当館の収蔵庫で生き続けます。（野本）



雲龍紋蒔絵鞍

民俗

民具は語る

もう20年ほど前になりますが、四万十川の漁具を集約的に収集しました。その間、自家用車を軽トラックに乗り換えて往復200kmを四万十川流域へ通いました。収集した漁具は200点弱でコレクションとしては少ないものの、当館の企画展「四万十川漁の民俗誌」で紹介し、四万十川流域の巡回展や岡山県立博物館の「平成25年度 岡山・高知文化交流事業 土佐の水とくらし」でも展示されました。近年は民具の収集が思うようにはかどっていませんが、民具調査は細々と続けています。

写真はその一件、高橋宏誼さんの「唐箕屋善七請合」墨書銘唐箕です。これまでの当館蔵の善七唐箕とは脚の位置等の形態が異なり、善七の仕事の変化を物語ります。これと同じ形態の高知市春野町の唐箕が香川県の四国民家村に収蔵されていますが、高知県内では本資料が確認された唯一の事例です。

また、この唐箕は、土佐の国分寺で高橋さんが数年前まで大晦日にお接待していた蕎麦を選別するときに使っていたそうです。四



高橋宏誼さん御夫妻と唐箕 平成27年1月17日

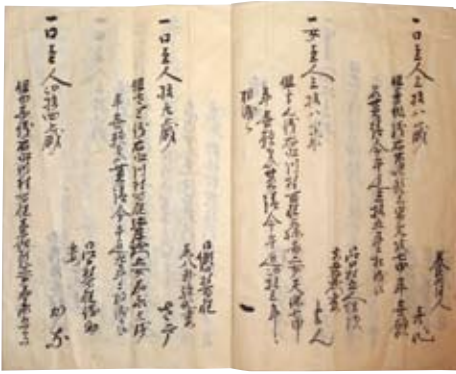
国八十八ヶ所霊場を護持してきた周辺農家の信仰について物語る貴重な民具です。土佐に生きてきた人々の暮らしや知恵について民具が語る声を聞きとっていきたくと願っています。（中村）

収蔵品紹介

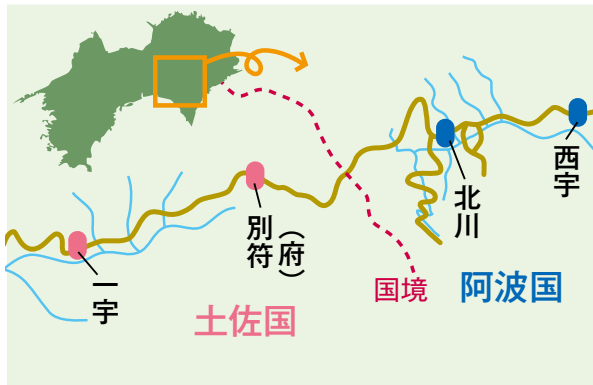
これは、安政6年（1859）に香我美郡榎野山郷別符（府）村・一字村（いずれも現香美市）で作られた「従他国前方養子縁貫請居候者指出扣写」。

なんだか随分長くてややこしいタイトル！ですが、じっくり字面を見れば分かる通り、以前に養子縁組や婚姻によって他国から来て、今も村内に住んでいる者のリストです。上からの命令で調査したところ、届出なく他領から移住している者が6人いたとして、村役人や番所役人がその出身地や年齢、移住年などを書き上げています。

江戸時代には他領との縁組が禁じられていたと記す史料もありますが、このような史料を見ていると必ずしもそうではなかったことが分かります。資



「従他国前方養子縁貫請居候者指出扣写」
（西村家資料、館蔵）



土佐・阿波の国境付近図

料が作られた別符村・一字村は阿波国との国境。6人の出身地は5人が阿波国海部郡木頭山北川村、1人が西宇村（いずれも現徳島県那賀町）の出身と、いずれも阿波側の国境付近の村です。他国との縁組は、土佐ではこれまでに史料上あまり確認できなかったのですが、国境付近では人や物の往来も日常的にあり、縁組も頻繁に行なわれていたということなのでしょう。それにしてもこの6人、無届けのまま長い年月を過ごしていたようです。一番の古株は百姓の忠吉で、別符村に養子に来たのはなんと36年前。庶民にとっては、書類上の手続きよりも、実際に村に住んでいるという事実が大切だったのかもしれない。 （大黒）

れきみんニュース

高知・岡山文化交流事業 終幕！

それぞれの地域が育んできた貴重な文化財を紹介し合いながら、お互いの歴史や文化に対する理解を深めることを目的として進められてきた高知・岡山文化交流事業。

平成24年度から3年間にわたって岡山県立博物館とタッグを組んで行なってきましたが、今年はその最終年でした。



岡山での開成式
（1月16日）

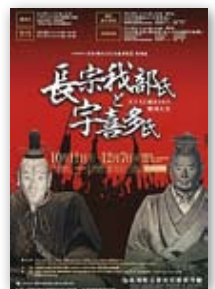
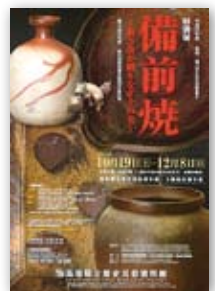
わたって岡山県立博物館とタッグを組んで行なってきましたが、今年はその最終年でした。

岡山からは備前刀や備前焼など、豊かな自然と高い技術に育まれた数々の文化財が目見え。一方、高知は坂本龍馬や四万十川の漁、土佐和紙などを取り上げていただきました。

そして、交流事業の最後を飾っ

たのは長宗我部氏と宇喜多氏。それぞれの地域に縁の深い戦国大名を一つの展示会のなかで同時に取り上げ、比較しながら楽しめるようにしていただきました。巡回展ではありませんが、両館が同じテーマで展示を行なったのも最終年の特徴。それぞれの館の個性も反映されていったのでは？

（大黒）



前田博史 天然写真展 たいよう **太**



太平洋は太い洋(海)。

3月28日(土)～4月19日(日)
3人の作家とのコラボレーション
吹きガラス 岡崎壮/ステンドグラス 宮崎武士/画 小出宣
1Fフリースペースにて
プレ「東部博」写真展も同時開催 撮影：前田博史

バックナンバーのお知らせ

『企画展
田辺寿男の民俗写真4
たましいの四季』



田辺寿男の写真集。モノクロ写真約120点で高知県の人生儀礼などの民俗を活写。
A 4変形版 158頁 1200円

『企画展
田辺寿男の民俗写真4
たましいの四季』
田辺寿男の写真集。モノクロ写真約120点で高知県の人生儀礼などの民俗を活写。
A 4変形版 158頁 1200円

高知・岡山文化交流事業Ⅲ

『特別展 長宗我部氏と宇喜多氏
—天下人に翻弄された戦国大名—』



ともに関ヶ原の戦いで敗北し、歴史の表舞台から消え去った戦国大名の足跡を、豊富な新史料によってたどる。
A 4版 112頁 1500円

高知・岡山文化交流事業Ⅲ
『特別展 長宗我部氏と宇喜多氏
—天下人に翻弄された戦国大名—』
ともに関ヶ原の戦いで敗北し、歴史の表舞台から消え去った戦国大名の足跡を、豊富な新史料によってたどる。
A 4版 112頁 1500円

『いざなぎ流の宇宙
—神と人のものがたり—』 **増刷**



香美市物部町に伝わる民間信仰・いざなぎ流は全国的に注目されている。平成9年に開催された企画展の展示解説図録を12年ぶりに増刷。
A 4版 160頁 1500円

『いざなぎ流の宇宙
—神と人のものがたり—』 **増刷**
香美市物部町に伝わる民間信仰・いざなぎ流は全国的に注目されている。平成9年に開催された企画展の展示解説図録を12年ぶりに増刷。
A 4版 160頁 1500円

岡豊風日(おこうふうじつ) 第89号
平成27年3月31日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり

観覧料 通常期(常設展)大人(18才以上) 460円・団体(20人以上) 360円
(特別展・企画展常設展示込) 510円
団体(20人以上) 410円

無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成27年 4月以降の催し

企画展 大坂夏の陣400年
長宗我部遺臣それぞれの選択
平成27年4月29日(水)～6月21日(日)

講演会 5月16日(土) 14:00～16:00 ●要予約・観覧料要
「藤堂高虎と長宗我部遺臣」講師：三重大学教授 藤田達生氏

展示解説 5月3日(祝)・5日(祝)・31日(日)
6月7日(日)・21日(日)
14:00～15:00 担当学芸員 ●観覧料要

ワクワクワーク 5月3日(祝) 10:00～12:00 ●観覧料要
大太刀(複製)に触ってみよう! ※甲冑試着体験もできます

史跡めぐり 5月22日(金)・23日(土) 1泊2日
「盛親と遺臣たちの戦いの軌跡をたどる」
盛親最期の決戦地、八尾(歴史民俗資料館+常光寺)をかわきりに、大阪城や菩提寺蓮光寺(京都)を訪問するツアーです。全見学地とも学芸員やご住職の解説付きです。定員30名(予定)

5月3日(祝) 歴民の日
観覧料は無料です ●様々な催しを開催します

第六回 長宗我部フェス
5月16日(土) 開催
※最新情報はHPに随時更新します。
☆翌17日(日)は、高知市長浜の若宮八幡宮で長宗我部まつりが開催されます。

予告 企画展「小さいもの見～つけた! 海洋堂のニッポン・ミニチュアカタログ(仮称)」
7月17日(金)～9月6日(日)
日本有数のフィギュアメーカー・海洋堂は、約2万点におよぶ生活用品や民家のミニチュアコレクションを所蔵している。今回はこの中からいくつかのテーマを選んで展示し、日本の伝統文化にふれてもらう。海洋堂のフィギュアもあわせて展示し、小さい物に対する日本人の感性を考える。

コーナー展 深淵神社の芝居絵屏風
8月1日(金)～31日(月)
予告
夏のコーナー展は恒例の芝居絵屏風。今年は宮本武蔵を題材にした「花禪会稽掲布染」の1シーンを描いた屏風など2点を展示予定です。お楽しみに!
屏風「花禪会稽掲布染」(深淵神社蔵)

お知らせ 展示替えのため昨年12月より閉室していた長宗我部室が3月1日よりご観覧いただけるようになりました。ご不便をおかけいたしました。

